

平成二十三年
いのち

生命の言葉

四月

いにしへの道を聞きても

唱えてもわが行いにせずばかひなし

島津忠良

裏面もご覧ください。

四月
生命の言葉

昔の貴重な道について聞き、それを口に出して唱えることができても、それを自分自身の行動にすることができなければ、何の甲斐もないことである。

『島津日新公いろは歌』

島津忠良 (しまづただよし)

一四九三〜一五六八年。薩摩の戦国大名。忠良は、琉球を通じて対明貿易や城下町の整備、養蚕産業の振興、家臣団の育成に励み、後に島津家「中興の祖」と仰がれた。忠良の教育論は島津家に代々受け継がれることになり、その後の薩摩独特の土風と文化の基盤を築いた。明治六年(一八七三)に竹田神社に祭神として祀られた。

卯の花の匂う頃のご参拝、皆さまの願い事はきつと神さまに届きます

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp/>



遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮